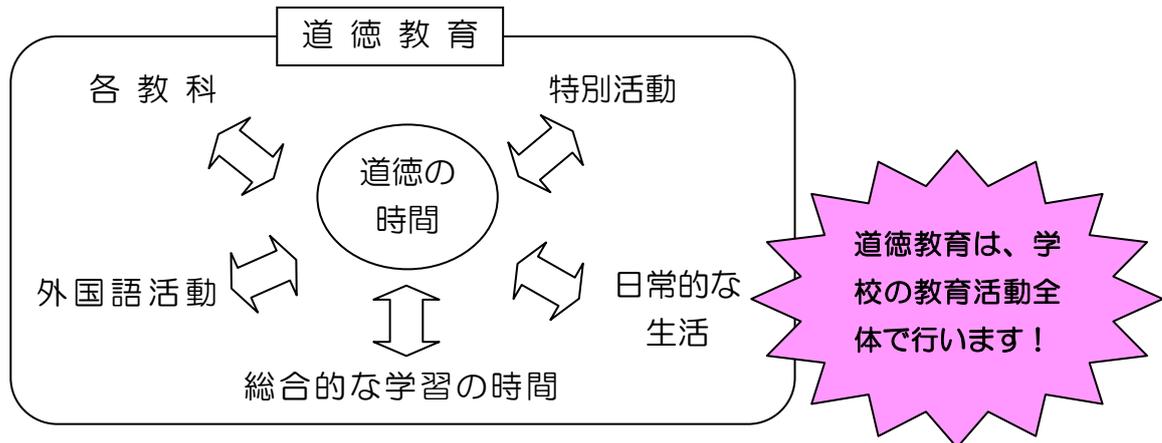


1 道徳の時間の目標

1 道徳教育と道徳の時間

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行います。

道徳の時間は、その道徳教育の要となる時間で、年間35時間（小学校第1学年は34時間）の標準授業時数が学校教育法施行規則によって定められています。



2 道徳教育の目標

道徳教育の目標は以下の通りです。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心もち、伝統と文化を尊重し、それらはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

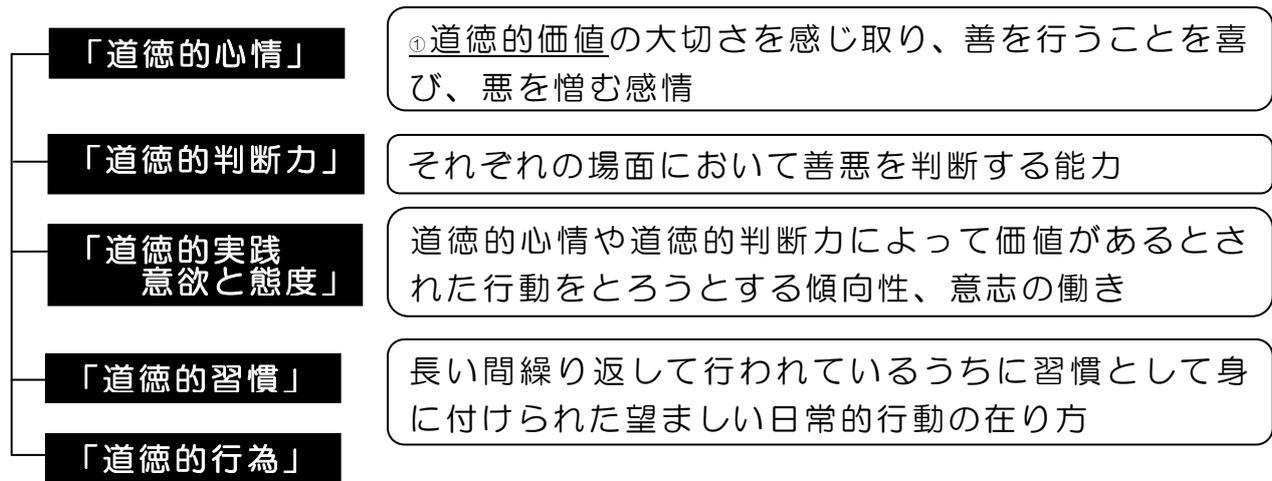
(学習指導要領 第1章 総則 第1の2)

教育全体に通じる目標

道徳教育固有の目標

道徳教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づいて設定されているため、教育全体の目標に通じるものです。道徳教育の固有の目標は「道徳性を養う」ことです。

- ◎ 道徳性とは・・・学習指導要領解説には「道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度など」と示されています。



3 道徳の時間の目標

道徳教育の要となる「道徳の時間」の目標は以下のとおり示されています。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、**計画的、発展的な指導**によってこれを**補充、深化、統合**し、**道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成**するものとする。

(小学校学習指導要領「第3章道徳」の「第1 目標」後段)

1 計画的、発展的に指導する

道徳の時間の大きな特徴は、小学校学習指導要領「第3章 道徳」の「第2 内容」に示された基本的な道徳的価値を全体にわたって計画的、発展的に指導するところにあります。



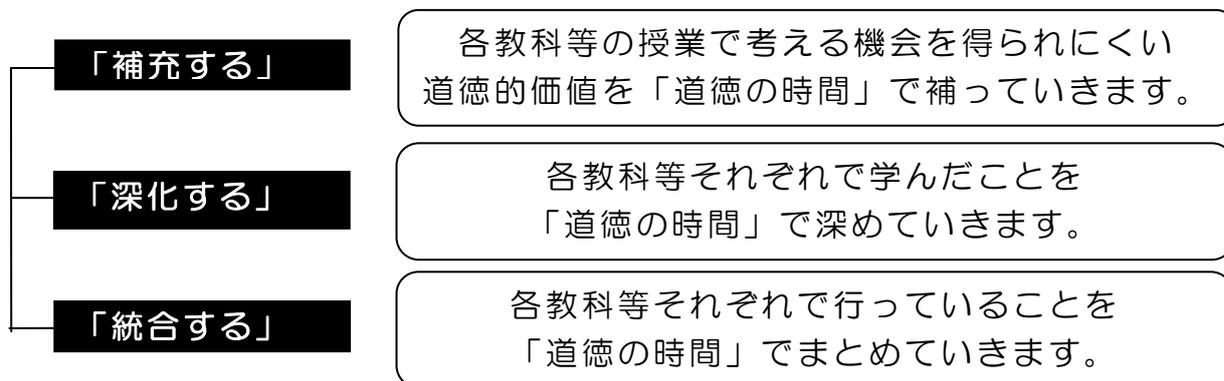
- 「第2 内容」は、低学年、中学年、高学年ごとに示されていますが、**各学年で、「第2 内容」のすべてを指導**します。
- 学校の「**年間指導計画**」をもとに行いましょう。

- ・ 地域や学校の実態及び児童の発達の段階や特性を考慮して作成された計画
- ・ 年間を通じてどのように児童の心を育てるかを示した計画

①道徳的価値・・・人間としての心の基本。人間としての在り方生き方の基本となるもの。人間らしさを表すもの。向上心や思いやり、公德心など。

2 学校の教育活動全体で行う道德教育を「補充」「深化」「統合」する

◎ 道德教育の要（かなめ）が「道德の時間」です。

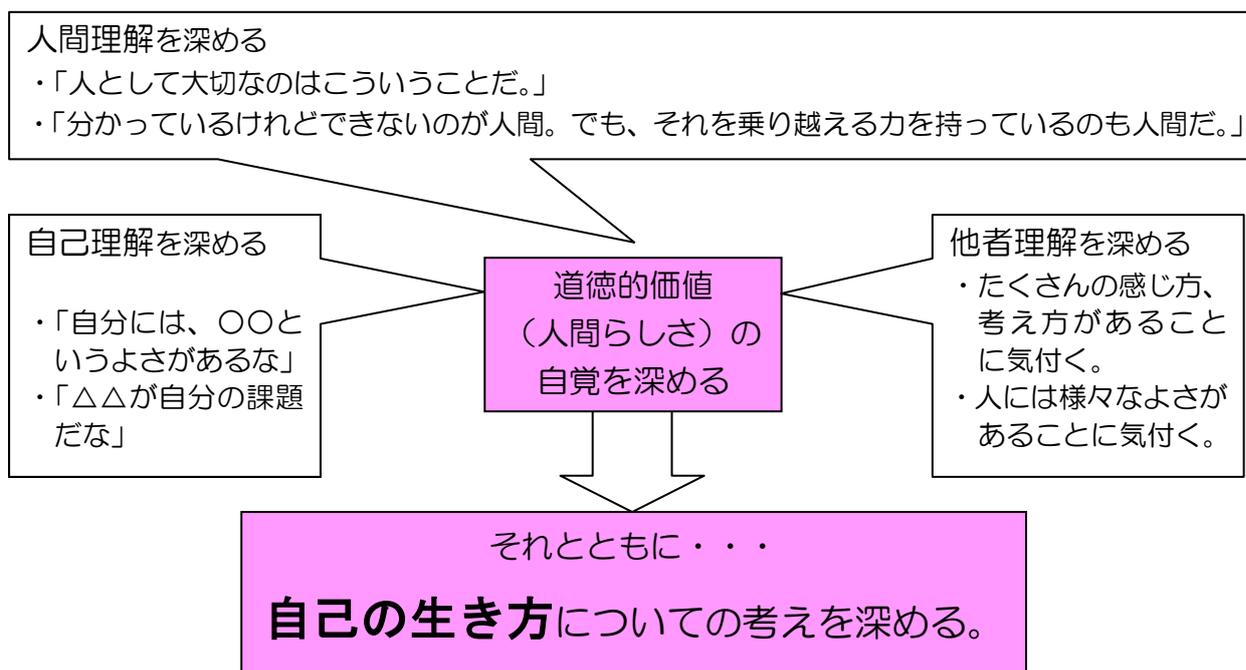


3 道德的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深める

◎ 道德的価値の自覚とは・・・

- 1 道德的価値について理解する
例：「ルールって大切だな」
- 2 自分とのかかわりで道德的価値がとらえられる
例：「自分は思いやりをもって生活をしているだろうか」
- 3 道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われる
例：「自分をもっとやさしくなりたい。そのためには・・・」

道德的価値の自覚を深めると同時に「人間理解」「他者理解」「自己理解」を深めます。

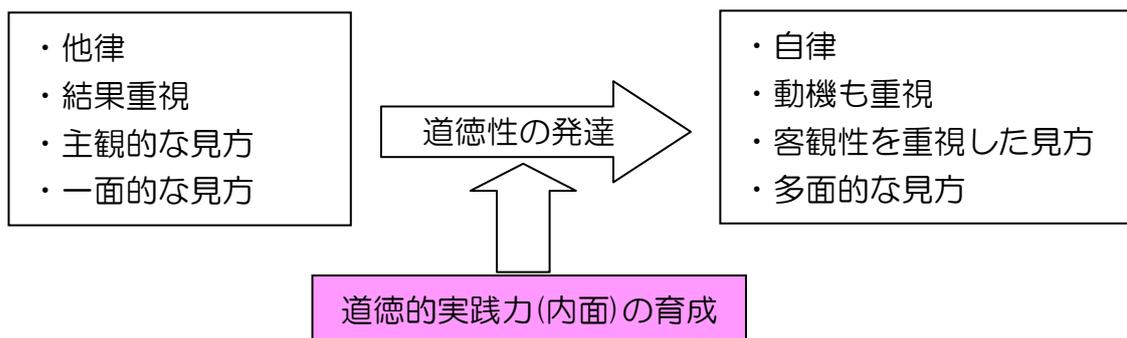


4 道徳的実践力を育成する

◎ 道徳的実践力とは・・・

人間としてよりよく生きていくための「力」です。

一人一人の児童が、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、人間としてよりよく生きていくための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような心の力です。



Point

- 自らの生き方を主体的に選択して実践する心の力を付けるのですから、**教師からの道徳的価値の押しつけや、単なる生活経験の話合いで終わらないように**留意しましょう。
- 道徳的実践力が育つことにより、より確かな道徳的実践ができ、そのより確かな道徳的実践を繰り返すことによって道徳的実践力も強められます。**道徳教育は、道徳的実践力と道徳的実践の指導が相互に響きあって、一人一人の道徳性を高めていきます。**

4 道徳の時間の指導 “7つの基本方針”

1 「道徳の時間」の3つの特質を理解しよう

- ① 自己を見つめる時間
- ② 道徳的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深める時間
- ③ 道徳的実践力を主体的に身につける時間

このことを理解して「道徳の時間」を展開しましょう。

2 信頼関係や温かい人間関係があふれる学級にしよう

日頃からの学級経営が道徳の授業をつくります。

学級経営がつくり出す、温かい人間関係を生かした「道徳の時間」では、一人一人が考え方をのびのびと表現できます。

3 児童が自分への問い掛けを深め、自分の未来に夢や希望を持つことができる授業を実践しよう

資料とのかかわり、教師と児童、児童相互のかかわりを通して、自分への問い掛けを深めることで、自分の成長を実感するとともに、よりよい生き方を見つけることができます。

4 一人一人に応じた指導を工夫しよう

一人一人の感じ方や考え方を大切にした授業を工夫しましょう。いまの自分の生活を振り返り、今後どうしていくのか主体的に考えられる道徳の時間にしましょう。

5 道徳の時間が道徳的価値を深める「要」となる工夫をしよう

各教科等との関連を確認し、教育活動で身につけてきた道徳的価値を補充、深化、統合する役割を果たす「道徳の時間」にしていきましょう。

日常の体験だけでなく、学校行事やボランティア活動、校外学習などの多様な体験を生かした授業を工夫し、道徳的価値のもつ意味や大切さを深く考えられるようにします。

6 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実させよう

道徳教育推進教師は、「校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師」のことです。校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に学校の全教師が協力しながら道徳教育の取組を進めていくことが大切です。

7 児童と共に考え、悩み、感動を共有し、学び合う姿勢をもとう

「道徳の時間」は教師と児童が心を共有する時間です。教師は教え込もうとするのではなく、教師自らが児童と共に考え、悩み、感動を共有しながら学んでいくという姿勢で授業に臨むことが大切です。